



西中図書館 新刊オススメ本



『喜怒哀樂のお経を讀む』
[釈徹宗 著]
朝日新聞出版

僧侶で宗教学者の著者は、現代人の抱える「恐れ」「怒り」「笑い」「悲哀」「老・病・死」について、本書の中でお経や仏教の考え方を問いかけと答えて優しく分かりやすい言葉で展開し、読み解いています。

『恐怖経』や『日本靈異記』、『薔薇の名前』そして『歎異抄』などからの言葉をひもとき、そこから気付かされる仏教の知恵は、現代の問題と結びついて考えるととても身近で、今を生きる私たちに心の苦しみから一歩を踏み出す指針を示しているようです。ぜひ一度、手に取ってみてください。



『みずほ、迷走の20年』
[河浪 武史 著]
日経 BP 日本経済新聞

『体の不調がスーッと消える「天気痛さん」の本』
[佐藤 純 監修]
扶桑社



『競争の番人』
[新川 帆立 著]
講談社



『両手にトカレフ』
[ブレイディみかこ 著]
ポプラ社

町民ギャラリー フォトクラブどんぐり

今月は、フォトクラブどんぐり・薄定雄さん（井谷）の作品です。

📷 作品名 『冬の越戸』



📷 作品紹介

以前、奥川地区の大舟沢集落に出掛けたこの日は、夜に降っていた雪も止み、時折、太陽が顔を出すようになっていました。その帰り道、今は住む人もなく、雪に埋もれてひっそりとたたずむ越戸の民家に太陽の光が差し込み、その存在を訴えるかのような輝きを放っていました。それに応えるように三脚を据え、じっくりと撮った会心の1枚です。

越戸を通ることはめったにありませんが、今でも「大舟沢」「越戸」といえば、冬のこの風景が目に浮かびます。

畳に描かれた絵画に見入っている来場者の皆さん



展示された作品の多くは、町内のサークルや公民館の生涯学習講座などに参加した皆さんが作成したものです。会場には、この美術展への出展を目標として創作活動に取り組み完成した力作がズラリと並びました。

また、町内企業の社内プロジェクトで、廃材となった畳をキャンバスにしてアクリル絵の具で描いた花嫁の絵なども展示され、さまざまな作品が多く来場者を魅了していました。

7月16日から18日の3日間にかけて、33回目となる町民美術展を野沢体育館で開催しました。3年ぶりの開催となった今回は、絵画や写真をはじめ、陶芸、書道、手芸など170点の作品が展示され、多くの来場者を楽しませました。



第33回町民美術展を開催

3年ぶりの開催、力作がズラリ！